

大正十三年 茨城縣統計書第四編目錄

警 察

第 一	警察區劃	頁 1
第 二	警察職員	3
第 三	警察官勤續年數及巡查俸給別	5
第 四	警察官年齡別	8
第 五	巡查教育程度	8
第 六	警察官任免及死亡	8
第 七	警察上褒賞人員	9
第 八	巡查懲罰人員	9
第 九	巡查退職料遣族料及諸給與	10
第 一〇	警察上死傷病人員	11
第 一 一	救 護	11
第 一 二	救護署別	12
第 一 三	保 護	12
第 一 四	精神病者	14
第 一 五	放火犯年齡教育其他因由別	17
第 一 六	自殺者月別及手段	19
第 一 七	自殺者年齡及因由別	20
第 一 八	被殺害者因由別累年比較	22
第 一 九	天災其他ノ事故ニテ死セシ者ノ因由別 累年比較	23
第 二〇	火 災	24
第 二 一	火災月別	24
第 二 二	火災ノ因由別度數累年比較	26
第 二 三	火防組及水防組	26
第 二 四	盜 難	27
第 二 五	盜難月別	28
第 二 六	盜難ニ罹リシ財産	29
第 二 七	脏物發見因由別	30
第 二 八	脏物發見因由署別	30
第 二 九	告訴告發	32
第 三〇	犯罪檢舉人員	33

第 三 一	犯罪件數及檢舉件數	35
第 三 二	警察犯諸規則違犯人員	39
第 三 三	行政執行法處分	40
第 三 四	刑ノ執行猶豫	41
第 三 五	微罪不檢舉	42
第 三 六	假出獄及假出場	44
第 三 七	禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者	45
第 三 八	政談集會	45
第 三 九	銃砲彈藥ノ賣買	46
第 四〇	狩獵免狀	46
第 四 一	宿泊人累年比較	47
第 四 二	宿泊人月別	48
第 四 三	諸興行日數月別	49
第 四 四	諸興行日數署別	50
第 四 五	取締ニ關スル諸營業	51
第 四 六	戶口調査	61
第 四 七	警 察 費	61

衛 生

第 四 八	人口及戶數郡市別	64
第 四 九	病院醫藥劑師藥種商製藥者及產婆	64
第 五〇	醫藥劑師產婆資格別	65
第 五 一	鍼灸灸治入齒齒拔口中治療整骨	67
第 五 二	產婆及鍼灸灸治試驗成績	67
第 五 三	看護婦試驗成績及年末現在	68
第 五 四	賣 藥	69
第 五 五	血清ノ設備	69
第 五 六	隔離病舍	69
第 五 七	衛生組合	70
第 五 八	檢疫及豫防委員	70
第 五 九	本籍人生產及現在人死產	71
第 六〇	現在人ノ出產中死產ノ懷孕月別	71
第 六 一	本籍人死亡	72

第六二	現住人死亡累年比較	72
第六三	現住人死亡原因月別	74
第六四	現住人死亡原因年齡別	77
第六五	十種傳染病患者及死亡者	83
第六六	虎列刺患者月別	84
第六七	虎列刺患者年齡別	84
第六八	虎列刺患者職業別	85
第六九	腸窒扶斯患者月別	85
第七〇	腸窒扶斯患者年齡別	86
第七一	腸窒扶斯患者職業別	88
第七二	赤痢患者月別	88
第七三	赤痢患者年齡別	89
第七四	赤痢患者職業別	90
第七五	赤痢患者治療日數	91
第七六	赤痢各戸別	91
第七七	實布埜里亞患者月別	92
第七八	實布埜里亞患者治療成績	93
第七九	實布埜里亞患者年齡別	94
第八〇	バラチフス患者月別	95
第八一	バラチフス患者年齡別	96
第八二	バラチフス患者職業別	97
第八三	發疹窒扶斯患者月別	97
第八四	發疹窒扶斯患者年齡別	97
第八五	發疹窒扶斯患者職業別	98
第八六	痘瘡患者月別	98

第八七	痘瘡患者年齡別	99
第八八	痘瘡患者職業別	99
第八九	猩紅熱患者月別	99
第九〇	猩紅熱患者年齡別	100
第九一	猩紅熱患者職業別	101
第九二	流行性腦脊髓膜炎患者月別	101
第九三	流行性腦脊髓膜炎患者年齡別	102
第九四	流行性腦脊髓膜炎患者職業別	103
第九五	種痘人員	103
第九六	検査壯丁花柳病及トラホーム患者	104
第九七	市町村立小學校兒童トラホーム患者	104
第九八	縣立學校生徒トラホーム患者	105
第九九	營業者及工場製造所從業者トラホーム患者	105
第一〇〇	貸座敷及娼妓	106
第一〇一	娼妓検査成績	106
第一〇二	屠畜検査成績	107
第一〇三	衛生講話會幻燈會	108
第一〇四	堀井構造	109
第一〇五	衛生ニ關スル取締規則違反	110
第一〇六	衛生費累年比較	110
第一〇七	縣衛生及病院費	110
第一〇八	郡衛生及病院費	112
第一〇九	市町村衛生費	112